

来日一日目から対話のはずむ生活・学習空間づくりを
---自文化と他文化の理解・認め合いが行われやすい空間とは？---

鈴木 美加

住まいは学生の生活の基盤であり、学生が精神的に安定して生活できることは、学業を支えることになる。また、日々の生活の中での学生同士の交流により、自分以外の存在を受け入れ、日本や異文化を理解すること、自分自身の文化のより深い理解につながり、精神的に大きく成長し、学業以上の学びが起こる可能性を秘めている。

玉岡（2004）は、留学生に対し住環境、日常生活、授業・研究各々の満足度を聞き、パス解析による因果関係の分析で、日常生活への満足度と大学の授業・研究への満足度が相互に強い因果関係があり、住環境に対する満足は日常生活への満足との因果関係が強く、授業・研究に対する満足とはある程度強く影響し合うと述べている。また、文部科学省が平成15年11月に発表した留学生宿舎の状況調査では、日本で生活する留学生総数10万9508名のうち民間の宿舎・アパート等に入居している留学生は75%、大学等の学校が設置する寮に入居している留学生は20.5%、公共法人等が設置する留学生宿舎に入居している留学生は4.5%となっている。住まいのあり方は、留学そのものの成否を決める重要な要素の一つになっていると思われる。

本稿は、生活空間としての寮の機能に関して検討することを目的とし、東京外国語大学留学生日本語教育センターの例を挙げて、述べることとする。なお、筆者は本センターにて日本語科目を担当している一教員である。

1 東京外国語大学留学生日本語教育センターの国費学部進学留学生の事情

毎年、東京外国語大学留学生日本語教育センター（以下センター）では、60～75名ほどの国費学部進学留学生（以下国費留学生）に対する来日直後の1年集中予備教育を行っており、この国費留学生は全て寮に居住することが定められている。平日は9時から4時半頃まで日本語あるいは専門基礎科目の授業をセンター棟で受けているが、授業以外の生活時間の基本が寮であり、生活空間としての寮の存在は大きい。食事や睡眠、炊事洗濯、休息などとともに、授業で学習した学習項目についての理解の確認と覚えるという作業が必ず必要である。日本語の授業に関して言えば、だいたい毎日漢字13字、語彙約40の新出言語要素が導入され、授業後の復習を行っていない場合、翌日、その次の日と新出事項がどんどん増えていくので、授業についていけなくなる。また各科目で出されるさまざまな宿題や課題にも取り組む必要がある。その中で、どのように学生自身が時間のコントロールをしながら必要なことをこなし、精神的なバランスをとりながら生活していくかは重要な問題である。

国費学部留学生は、各国で実施される選考試験の受験、その後の選考のプロセスを経て、採用される¹。その時点では、日本語学習は必要とされておらず、採用された学生は、日本

¹ 国費学部留学生のほとんどは、非漢字系の学生である。

語集中予備教育1年を経て、国立大学学部に進学する。国費学部留学生の場合、毎月13万5000円文部科学省より奨学金を受け、学生が経済的な問題を感じずに、しっかりと学業に取り組めるような態勢となっている。全く日本語を知らなかった18～22歳の留学生が、センターでの1年の終わりには、その日本語でスピーチやディスカッションをし、小論文を書き、ニュースやドラマを聞いたり、辞書を片手に新聞などを読むことができるように、カリキュラムが組まれ、多くの学習項目の含まれる密度の濃い授業、各学生に応じた個別指導、2カ月ごとの定期試験が行われている。毎日、授業前後の予復習が不可欠であり、定期試験の結果で学生自身の進学する大学が決まるため、特に試験前はほとんどの学生が夜遅くまで勉強し、ストレスで悩む学生も多い。また、日本語の習得が期待されるペースより遅かったり、その他学習や生活面である程度の問題が認められる場合でも、留学の最終的な目標は、大学学部での学業を無事終えて卒業することであるため、センターでは教師側で個別の対応をしながら、日本の大学学部での学習を進めるのに必要な知識や能力を育成する手助けを行い、予備教育の修了認定ができた際、学生の進学大学への連絡も必要に応じて行っている。

2 体験を通しての異文化への気づきと理解、認め合い

センターでの1年間の生活は、国を超えた学生同士のつながりなしには考えることはできない。自国から1人で、ある意味で国を背負って来ている学生も少なくない。また、家族から離れて暮らす生活は初めての学生も多い。不安を抱えて来日した学生達が、生活の場面で顔を合わせ、挨拶をしたり、何気ないちょっとした会話を交わすことから、つながりが生まれ、友人関係が作られていく。寮内の出会った所や、食堂、学生が集まった場所で、授業の課題に関する情報交換をしたり、店の安売り情報、自分の経験、日本や自国の社会などについて情報や意見を交わすことが毎日行われている。そのようなことを通して、不安なのは自分だけではないという発見や、他の学生の生活術や考えなどに接することにより、自分とは異なる文化を持つ他者の理解や興味、認め合いが生まれ、学生自身による日本での自分の位置づけ、生活や学習への意欲にもつながっていると思われる。

日本での大学学部に入る留学生に対しては、大学で必要となる日本語や日本事情の教育は欠かせない。それと同時に、日本で大学生活を送る学生にどのような能力が必要かと考えると、例えば、自分のまわりにいる人と良好な人間関係を築ける能力や、困った時に自分がどう困っているかを相手に説明し、助けを求めることができる能力、教師等相手が説明した意図を理解し、それに対し真摯に受け止め、行動できる能力などがあると思われる。しかし、そのような能力は、明示的に目標を立て、教育を行うということは難しいし、なじまない。これまでの、各々の留学生が持つ背景と来日直後のセンターでの1年、翌年度からの4年の大学学部での経験を通じて、学生自身が無意識、あるいは意識的につかみとっていくものだろうと思われる。

3 古い寮から新しい寮への生活空間の変化

東京外国語大学留学生日本語教育センターは、2003年2月に府中市朝日町の東京外国語大学のメインキャンパス敷地内に移転統合した。その際に、校舎棟としてのセンター棟、

寮棟（現東京外国語大学国際交流会館1号館）ともに新しく造られ、使用することとなった。国際交流会館の建設にあたっては、移転前の寮の構造とはずいぶん造りが変わった。移転前の寮の平面図を図1、移転後の寮（国際交流会館）の平面図を図2にあげる。

図1 旧東京外国語大学留学生日本語教育センター寮平面図（1階）

図2 東京外国語大学国際交流会館7階平面図

各々の主な特徴を簡単に以下に挙げる。

a)東京外国語大学留学生日本語教育センター旧宿舎（1970年～2004年2月）

- ・国費留学生のみが居住し、3階建てで定員70名である。
- ・1階には、学生及び教職員が使用する食堂及びラウンジスペース、音楽室（含ピアノ、テレビ、ビデオ、応接セット等）がある。
- ・寮内の居住空間として、学生用居室の他に、各階にそれぞれ共同設備として居住者用キッチン、トイレ、洗面所、シャワー室、ランドリールームがある。2階には談話室も設けられている。
- ・各学生の居室は個室（概ね9平方メートル）で、廊下を隔てて両側に居室が並んでいる。

個室には、机、椅子、本棚、ベッド、クロゼット、ミニ冷蔵庫、電気スタンドが備えられている。

- ・寮の1階部分は授業の行われる校舎棟とつながっており、授業後も校舎棟にある学生用コンピュータ室、教室、図書室を使用することができる。運動場及びテニスコート、夜9時頃までは体育館も使用可能である。学習・生活上の質問があれば、校舎棟内にいる教師及び事務員に尋ねることができる。夜間は、地域のシルバー人材センターより派遣された宿直1名が寮及び校舎棟の玄関施錠、安全確認等の仕事にあたっていた。
- ・共同スペースの清掃はセンターで雇用した非常勤職員が行っていた。
- ・京王線中河原駅より徒歩5分で、駅周辺にはスーパー、銀行、病院、郵便局、ファーストフードの店等がある。

b)東京外国語大学国際交流会館1号館(2004年2月ー現在)

- ・東京外国語大学の受け入れた学生が居住し、7階建てで定員140名である。
- ・正面玄関の風防室奥のドアと、居室につながる廊下及びエレベータ・階段スペース前のドアはカードキーを使用して入るようになっている。全居住者の共同設備として1階に、ラウンジ(含テレビ、ビデオ、応接セット)、音楽室(含ピアノ)、自習室、キッチン、和室、三角形の中庭スペース内に卓球台とトレーニングマシンがある。各階に、共同設備として外空間としてのラウンジまたはランドリースペースが作られている。
- ・2階以上は各階居室が23室あり、国費学部留学生用に、5ー7階と4階の一部の居室が割りあてられ、居室は全て、天井無しの吹き抜け空間に面した廊下に接している。2階以上は各階に一人チューターとして、日本人学生(大学院生)が居住している。
- ・各学生の居室は個室(概ね14.5平方メートル)で、吹き抜け空間及び廊下を隔てて居室が並んでいる。個室には、移転前の寮の備品に加え、ユニットバス(トイレ、シャワー、浴槽)と電気コンロと小流し台が設置されている。
- ・チューターが交代で、共同設備の施錠、緊急時の連絡等を担当している。
- ・廊下などの清掃は大学で雇用した業者が行っている。
- ・授業が行われるセンター棟へは徒歩1ー2分である。西武是政線多磨駅より徒歩7分、京王線飛田給駅より徒歩約20分である。最寄りのコンビニが徒歩2分、多磨駅周辺に個人商店が数軒、最寄りのスーパーは自転車で20分前後かかる。

以上から、移転前と移転後の生活空間がかなり異なっていることがわかる。どちらも居室は個室という点が共通であるが、移転前後の2つの寮について、1)移転前、共同で使用する設備が多く、移転後の国際交流会館は、個々の居室にトイレ、シャワー、キッチンの設備が備わったこと、2)移転前、校舎棟とつながっている環境から、移転後校舎棟(センター棟)とは約100メートルほど離れたこと、3)建物内に食堂があったが、移転後はなくなったこと、4)自分の居室から他の学生の居室に行く時や、廊下や階段を通る時、移転前は室内であったのが、移転後は建物の中であっても屋外の空間となっていること、5)移転前に日本人は、宿直室あるいは事務室、研究室に教職員や非常勤職員ぐらいで、キャンパス外から訪ねてくる日本人学生が時々いる程度だったが、移転後はチューターと

しての日本人学生が6名住むようになり、同じキャンパスに日本人学生も多いことから、より日常の日本語使用環境に近づいた、などをあげることができる。

移転前の寮に居住中の学生が、寮が古く狭いことや、共同キッチンの使い方が悪い階があること、音が響きやすいといったことを話していたことがあった。またまれにはあるが、以前授業にパジャマで現れる学生がいたり、授業に出てこない学生を教師が呼び出したりする等、寮と学校（教室）が一続きになっていることでの生活、授業パターンとなっていて、プライベートな空間と公的な空間と明確に分けにくかったと思われる。そのため、それによるメリット、デメリット両方が見られた。

移転後、特に今年度初めに来日した国費学部留学生達の生活パターンや人間関係が、前年度までとはかなり異なっているように思われた。例えば、多くの学生が、同じ日本語クラスの学生同士ならわかるが、あまりそれ以外の学生の顔や名前を知らない様子であったことや、料理等、生活のためにずいぶん時間をかけざるを得ないと話す学生が少なくなかったこと、例年なら国から一人で来ている学生も、ほかのいろいろな国の学生と食事や授業前後に行動を共にしているのをよく目にしていたが、今年度はあまりそのような光景を目にしないことなどから感じられた。

4 質問紙による寮での生活に関する調査

国費学部留学生が来日1年目に過ごすセンターの生活に対し、学生自身が何を感じ、その生活によって、学生自身が変化したか、またどのように変化したと捉えているかについて調べることを目的として、筆者は質問紙による調査を行うことにした。

質問紙による調査の場合、記述された質問項目に対し、言語で答えを記述するという方法となるため、学生自身が意識している内容は書くことができるが、無意識に感じている部分については言語的に記述することは困難である。その点に留意しながら、調査を進めることとした。

2003年度の東京外国語大学留学生日本語教育センター国費学部留学生は2003年4月来日当初から2004年2月半ばまでを移転前の寮で、それ以降3月28日までを移転後の国際交流会館で過ごしている。両方の寮を経験した2003年度の修了生を対象者として、両方の寮での生活についてどう感じていたか、2005年1月下旬～2月上旬に調査を実施した。

質問用紙は資料1に示す通りである。質問内容は、学生の寮での生活に関することが中心であるが、1年の生活を振り返っての自分の変化についての質問項目も設けた。アンケート項目は選択式と記述式がある。選択式で、程度を問う質問以外には、当てはまるものを全て選ぶよう、依頼している。移転前の寮では、授業後校舎棟や体育館を利用できることから、質問の選択肢に寮以外の場所も含めている。

2003年度の修了生59名のうち、住所がわからない者1名を除く58名に調査用紙を発送した。これまでに29名からの回答を得、回収率50.0%である。

以下にその調査の結果を示す。4-1では、移転前の寮の各スペースの機能、4-2では、センターにいた時の生活、4-3移転後の寮の個室の機能と、各階の共同設備（シャ

ワー、トイレ、キッチン) がなくなったことに対する印象、4-4は来日1年目の集中予備教育を受けなければならない国費学部留学生の住まいに関する意見について調べた結果をあげる。以下に質問項目をあげながら、その選択肢と各選択肢を選んだ学生の割合を示す。カッコ内には、その選択肢を選んだ学生の数を示す。

4-1 移転前の寮の個室や食堂、共同設備の機能

- 1) 古い寮の個室は
 - 勉強にいい 69.0% (20)
 - 友達と話すのにいい 65.5% (19)
 - 部屋にいとリラックスできる 37.9% (11)
 - 食事にいい 20.7% (6)

学生は、移転前の居室について、6-7割の学生が勉強、友達との交流にいいとし、リラックスできるとしたのは4割弱、食事にいいとしたのは2割である。勉強にいいとした理由に、「集中しやすい所でした」「静かだから」「勉強のための装置[設備]が整ってある[整っている]」、友達と話すのにいいとした理由に、「部屋を出るとき、友人と出会うチャンスが多い」「寮全体が一軒の家で、自分の部屋はベッドルームだけの感じだったので、友達の部屋でも遠慮なく入ることができた。」などがあげられている。「同じ所で勉強と食事をするのが不便だと思って、キッチンで食事をしていました。勉強には便利だったと思います。」のように、食事スペースと勉強スペースを自分で分けていた者もいたことがわかる。

2) あなたにとって、食堂のスペースはどんな所でしたか。

- 食堂の食事を食べる所 100.0% (29)
- 他の学生と話す所 75.9% (22)
- 食堂の方とあいさつしたり少し話す所 65.5% (19)
- 新聞や雑誌を読む所 58.6% (17)
- パーティーをする所 37.9% (11)
- テレビを見る所 34.5% (10)
- センターの先生と話す所 34.5% (10)
- 勉強する所 27.6% (8)
- 他のことをする所 24.1% (7)

上の結果でわかるように、学生は食堂の空間を、食事はもちろん、交流、情報収集、学習等、さまざまな目的のために使用していたことがわかる。「他のことをする所」には、日本人や先輩と会って話す所、授業と授業の間休憩する所という回答をあげている。

3) 寮に共同の設備 (キッチンやシャワー室、トイレ) があったことについてどう思いますか。

- 良かったと思う 58.6% (17)
- 悪かったと思う 65.5% (19)

共同設備があったことについて、良かったか悪かったかを質問し、「良かった」6割弱、

「悪かった」6割半である。特に、一つだけを選ぶように指示しなかったため、学生自身が共同設備の長短を感じており、両方に○をつける者が多かった。どちらにも○をうたず、その理由欄に長短の説明を書いた者が1名いた。また、片方に○を書いた者でも、長短両方の理由を書いた者が8名いた。

「良かった」の理由として、他の学生と会えることをあげた者が18名、学生が掃除しなくて良かったことをあげた者3名、「広い、無料」とした者1名だった。「悪かった」の理由には、汚かったと書いた者11名、自分の好きな時間に使えず、待たなければならないことをあげた者7名、「古い」2名、「不便」1名、「自分のプライバシーが他人に邪魔された」1名だった。

4—2 センターにいた時の生活

1) あなたはどこで勉強していましたか。(複数回答可)

自分の部屋	100.0%	(29)
教室	65.5%	(19)
図書室	58.6%	(17)
友達の部屋	55.2%	(16)
食堂	24.1%	(7)
スカイラーク	10.3%	(3)
音楽室	3.4%	(1)
そのほか	6.9%	(2)

勉強のために、かなりの割合で、複数の場所を確保していたことがわかる。センターの図書室にはあまり書籍がなかったが、学生の自習用の部屋として機能していたことがわかる。また駅近くにファミリーレストランがあり、勉強のために学生が行くことを筆者が聞いていたので、選択肢に含めた。「そのほか」には、「屋上」2名、「カフェ」1名である。屋上は寮と校舎棟各々3階が外に出られる構造になっており、そのどちらかを指していると思われる。

2) あなたが、友達や他の学生と話していたのはどこでしたか。(複数回答可)

食堂	96.6%	(28)
自分の部屋	89.7%	(26)
友達の部屋	89.7%	(26)
各階のキッチン	86.2%	(25)
教室	82.8%	(24)
音楽室	72.4%	(21)
体育館	58.6%	(17)
トイレ	44.8%	(13)
シャワー室	37.9%	(11)
図書室	37.9%	(11)
スカイラーク	20.7%	(6)

その他 6.9% (2)

センターの食堂が、学生にとって他の学生と話す重要な場となっていたことがわかる。自分及び友達の個室、キッチン、教室、音楽室、体育館ではよく会話をもたれ、トイレ、シャワー室、図書室も4割前後の回答がある。共同設備で順番を待つ時や、すれ違う時等に会話が交わされていたのではないかと推測される。

3) あなたがセンターにいた時、何か困った時やストレスがあった時、どうしましたか。
(複数回答可)

一人で過ごした	58.6%	(17)
ほかの学生に相談した	58.6%	(17)
友達といっしょに遊んだ	58.6%	(17)
国の家族に相談した	51.7%	(15)
友達といっしょにスポーツをした	41.4%	(12)
先輩に相談した	37.9%	(11)
国の友達に相談した	31.0%	(9)
先生に相談した	27.6%	(8)
一人でスポーツをした	13.8%	(4)
お酒を飲んだ	0.0%	(0)
その他	13.8%	(4)

心理的な問題がある時、学生がどのように対処していたかを調べるために、この質問に答えてもらった。6割近い者が「一人で過ごした」「ほかの学生に相談した」「友達といっしょに遊んだ」とし、複数の方法で、その問題に対処している様子がうかがえる。その中でも顕著なのは、「友達」への働きかけであるように思われる。「ほかの学生」は恐らく友達のことであり、そう捉えると、友達を相手に行っている項目（相談、遊び、スポーツ）はいずれも選択率が高い。「その他」として、「ホームステイやYWCAのお母さんに相談した、友人と話した」、「お祈りをした」「散歩」「まんがや小説を読んで、一日中なにもしない」「パソコン室で遊んだ」があげられている。

4) センターの寮でほかの学生とよく話しましたか。

毎日とてもよく話した	44.8%	(13)
よく話した	41.4%	(12)
時々話した	10.3%	(3)
ほとんど話さなかった	3.4%	(1)

これは、学生が、寮でどの程度他の学生と交流をしていたかを、学生自身の主観で答えてもらった。「毎日とてもよく話した」は5割弱、「毎日とてもよく話した」と「よく話した」を合わせると、86%の者がよく話したと答えている。

5) センターの1年間の寮の生活で、あなた自身の心や行動などが変わったと思いますか。

- ずいぶん変わった 65.5% (19)
- 少し変わった 31.0% (9)
- ほとんど変わっていない 3.4% (1)
- 全然変わっていない 0.0% (0)

学生自身が心理的に、あるいは行動の面で自分が変わったと感じているかを質問した。「ずいぶん変わった」「少し変わった」を合わせると、96.5%の学生が変わったと答えている。「変わった」とした人にその内容を聞いたところ、内容に基づき主だったものをあげると、自立あるいは責任感、成長したという意識を持ったと答えた者 10、いろいろな友達との交流ができた 8、異なった考え方・文化を理解、許容しやすくなった 4、他の学生の存在等からの学習に対する意欲・動機づけが高まった 3、自分に自信が持てるようになった 2 と肯定的な回答が多い一方で、自信がなくなった 2、寂しく感じた 1、「他人を信頼し難くなり、一人きりの方が安楽になった」 1 と否定的な回答もある。

7) センターにいた時、あなたに以下のことをしてくれていた友達、知人、先生は何人ぐらいいましたか。だいたいの数でいいですから、その人たちを思い浮かべて () に人数を書いてください。センターの教師については、「日本人」の中に入れて考えてください。

- ・あなたが勉強で困った時、助けてくれる人：留学生は (5.8) 人ぐらい
日本人は (3.4) 人ぐらい
- ・あなたのいい点も悪い点も分かってくれている人：留学生は (5.5) 人ぐらい
日本人は (2.7) 人ぐらい
- ・あなたが悪いことをしたら、注意してくれる人：留学生は (3.8) 人ぐらい
日本人は (2.5) 人ぐらい
- ・あなたが悩みを話せる人：留学生は (4.4) 人ぐらい
日本人は (2.0) 人ぐらい
- ・冗談を言い合える人：留学生は (12.1) 人ぐらい
日本人は (2.8) 人ぐらい
- ・お互いにあいさつできる人：留学生は (30.5) 人ぐらい
日本人は (13.8) 人ぐらい

この質問では、人間関係の広がりや、自分のまわりに存在する信頼できる人がどの程度いると学生自身が認識していたかを尋ねることを意図している。上の()内の数字は、全体の平均人数である。回答から留学生、日本人合わせると、「勉強で困った時、助けてくれる人」最多 30 人最少 0 人、「自分のいい点も悪い点も分かってくれている人」最多 20 最少 1、「悪いことをしたら、注意してくれる人」最多 20 人最少 0 人、「悩みを話せる」最多 22 人最少 1 人、「冗談を言い合える人」最多 35 人最少 2 人「お互いにあいさつできる人」最多 85 人最少 10 人であった。

4—3 移転後のセンターの新しい寮（国際交流会館）について

- 1) 新しい寮の個室は 勉強するのにいい 82.8% (24)

部屋にいるとリラックスできる 65.5% (19)
 食事するのにいい 55.2% (16)
 友達と話すのにいい 27.6% (8)

移転後の寮は8割余りが「勉強するのにいい」、6割半が「リラックスできる」、5割半が「食事するのにいい」としているが、「友達と話すのにいい」としたのは、3割弱である。

「勉強にいい」理由として広さをあげた者4名、静かさ(防音)をあげた者2名で、「リラックスできる」理由は、広いことをあげた者4名、部屋を出る必要がないとした者3名、新しくてきれい2、部屋の中に必要な設備が揃っているので一人でのんびりできる2、プライバシーが守れる1、「食事をするのにいい」に関して、ミニキッチンがついていたことをあげた者4であった。

この結果を1-1)の移転前の寮についての質問結果と比べてみると、移転後の寮の方が勉強(13.8%増)やリラックス(27.6%増)ができるとする学生が多いが、友達と話す(37.9%減)ことはできにくいと考えている学生が多いと言える。

2) 学生の各部屋にシャワーやトイレ、料理をするための小さいコンロが設けられました。そして、寮の食堂や、共同きょうどうの設備せつび(みんなでいつも使うキッチンやシャワー室、トイレ)がなくなりました。それについて、どう思いますか?くわしく説明してください。

良くなった 58.6% (17)

悪くなった 72.4% (21)

寮の食堂や共同の設備がなくなり、個室にそれらの機能がおさめられたことに関し、「良くなった」6割弱、「悪くなった」7割強であった。特に択一式かどうかを指示しなかったため、両方を選んだ者が10名おり、どちらも選ばず、コメント欄に良い点、悪い点どちらも記入した者1名であった。そのため、「良くなった」のみを選んだ者7名、「悪くなった」のみ選択11名、「良い点、悪い点どちらもある」という回答をした者11名と考えることができる。

「良くなった」理由として、いつでも自由に使えることをあげた者8名、またいろいろな意味に解釈できるが「便利」をあげた者6名、プライバシー面をあげた者2名であった。その反対に「悪くなった」理由として、他の学生・友達と会う機会の減少をあげた者18名、自炊やミニキッチンの問題をあげた者3名、「部屋を出る必要がなくなり、人間関係をつくりにくい」とした者1名であった。

4-4 来日1年目の集中予備教育を受ける国費学部留学生の住まいに関する意見

1) 来日したばかりのセンターの新しい学生が、1年間過ごす寮として適当てきとうだと思うのは古い方の寮と新しい方の寮のどちらのような住まいですか?その理由も書いてください。

古い方の寮のような住まいに住むのがよい 69.0% (20)

新しい方の寮のような住まいに住むのがよい 20.7% (6)

無回答 10.3% (3)

現在大学1年として、昨年度の自分の状況を振り返り、来日1年目の学生が過ごす居住空間として、どちらの寮が適当と考えるか答えてもらった。留学生といっても、予備教育、大学学部、大学院、研究生といった学生の身分やスケジュール（過密かどうか）、年齢によっても回答は違ってくると思われる。この場合、学部留学生の予備教育段階の学生を想定して、質問している。また、ここでは、移転前の寮と移転後の寮共に、個室の状況や建物の地理的条件など、いろいろな要素が含まれるが、大きく分けてどちらのような住まいを選びたいか尋ね、理由を聞くことによって、学生が望む寮の特徴を明らかにしたいと考えた。

移転前の寮のような住まいがよいとした者7割弱、移転後の寮のような住まいがよいとした者2割余である。無回答が1割いるが、いずれも「その理由」を書いており、どちらかを選ぶことが困難だという意見を持っていることがわかる。移転前の寮のような住まいがよいと考える理由として、他の学生と会う機会が多く、友人関係が作りやすいことをあげた者9名、地理的な利便性4名、地理的にかどうかかわからないが「便利」とした者2名、一体感や人間関係の良さをあげた者2名、「他文化の中に入ったばかりの時一番大切なのは人との交流だと思うから」1名、「寮と教室が一つの建物にあるのが温かく感じる」1名、「新しい寮の方が寂しい感じがした」1名であった。「他の学生と会う機会が多い」を理由にあげた9名のうち、特に同じ境遇の学生と知り合えることの重要性をあげた者が1名いた。

移転後の寮のような住まいを選んだ者は、その理由に日本人と会う機会が多いをあげた者2名、部屋が便利なことをあげた者3名、「マンションのような住まいのため」1名であった。

選択式の質問に無回答の者はその理由として、「それぞれ利点があった」「判断は難しい。新しいのは良いけど環境はよくない。例えば例えば買物、交通、遊ぶ所(billiard, bowling, karaoke...)」、「両方ともいい点と良くない点もあるのでどちらの方がいいか一言で言えないが、古い寮ではとてもいい友達ができて良かったと思う。留学生には何よりも人間関係はとても大切なことである」と述べている。

2) 来日したばかりのセンターの学生にとって、住む場所としての寮にはどんな条件が必要だと思いますか？とても大切な条件だと思うものには◎、大切だと思う条件には○を選んでください。必要だと思うものにはすべて◎か○を書いてください。

◎を 100, ○を 50 と見なし、各項目ごとに合計し、平均を出すと以下の結果になる。
カッコ内は全回答の合計である。

友達といっしょに料理や勉強がしやすい 70.7 (2050)

寮のほかの学生と会う機会が多い 67.2 (1950)

一人でいられる場所がある 55.2 (1600)

日本人学生と会う機会が多い 53.4 (1550)

そのほかのこと 22.4 (650)

上の結果は、来日1年目の国費学部留学生にとって、住まいとしてどのような条件を備える必要があるかを尋ねたものである。上にあげた条件はどの程度満たされるのが望ましいか、学生自身に体験に基づいて答えてもらうことを意図した。全学生が回答した各条件の必要度の平均を便宜的に百分率で結果を出してみた。その結果、「友達といっしょに料理や勉強がしやすい」と「寮のほかの学生と会う機会が多い」が重要な条件であり、「一人でいられる場所がある」と「日本人学生と会う機会が多い」の条件も大切だと考えられていることがわかる。「そのほかのこと」の欄には、地理的条件として「図書館が近いこと」「近くにスーパーや公園などがあった方がいいかもしれない」、設備の条件として「ストレス解消や国の家族とのコミュニケーションのため、体育館とパソコン室が設けられること」「大勢で自由にパーティーをする場所がある方がいい」「勉強するのにいい」「お祈りする部屋があること」、寮内あるいは近辺での人間関係の面で「先生と会う機会が多い」「先輩と会う機会が多い」、寮の雰囲気に関し「自分の家みたいな場所」「多分、来たばかりの学生にとって古い寮のような環境が過ごしやすいと思います」という回答を得た。

3) あなたがセンターの寮に1年間住んで、よかったと思うことは何ですか？

どんなことでもあげてください。

この項目では、センターの予備教育修了後約10カ月で、現在大学1年の学生達に、センターの寮の生活を振り返ってよかったと思うことをあげてもらうことにより、寮の意義について検討したいと考えた。自由記入形式で、27名より回答を得、2名は記入なしであった。

回答は、「たくさんの新しい友達ができ」「いい友達ができ」等、「友達ができ」ことをあげている者10名、いろいろな国の学生と出会えたこと5名(以下数字は一名の略)、いろいろな国のことや文化を知った2、他の学生とみな一緒に住み、大きな家族のように感じられたから、よかった1、先生と親しくなれた1、外国で住むチャンスが持てた1、人間関係がとてもよかった1、他の学生達と楽しむことができていた1、よく遊んだ1、外国人同士と一緒にいられること1、の回答は人間関係に関わる内容である。日本・日本語について述べた回答には、日本語が勉強できたこと2、日本の文化がわかってきた2、勉強できること1、日本に関する知識を得た1がある。寮空間に関するコメントで、人間関係が作りやすい1、共同の所が良かった1、センターの(移転前の)食堂は人とよく会う場所だった1、食堂は安くおいしかった1、古い寮でおいしい料理を食べた1、よくスポーツをして元気でいられた1、病気の時病院が近くてよかった1、先生の働いてい

る所が近いので困ったことがあればすぐ聞ける1、があげられた。その他、学生自身の内面について、自分の性格がいい方向に変えられた1、人間や人間関係に関しての考え方が変わった1、「一人暮らしとはどういうことかわかり、友達と家族を大切にするようになりました。自分の力で何でもできるという感じを持つようになりました」1という回答を得た。一方、寮の生活自体は特に良いことがないと思う1、という回答もあった。

4) 今、センターの新しい寮に皆さんの後輩が住んでいますが、住む時にどんなことに気をつけたらいいと思いますか。アドバイスをお願いします。

この質問項目の回答は、国際交流会館で生活する者への生活上のヒントになるとと思われる。アドバイスとして、自分の部屋にこもらないようにする6、友達を作れるよう努力する4、勉強しすぎない2、共用設備を利用して他の学生と仲良くなる2、日本人や他の学生とたくさん話すようにする1、ストレスがたまらないように工夫する1、リラックスして住んでほしい1、吹き抜け空間に注意する1、日本人によく会って、日本の文化を知る1、他人に迷惑をかけないようにする1、勉強と休みのバランスが取れるように時間を大切にする1ということが心がけるべきこととしてあげられている。記入なしは5名であった。

5 質問紙による調査結果のまとめ

4で見た結果をまとめると、国費学部留学生が本センターで過ごした寮の生活の様子や寮生活に対する意見、感想として、以下のことがわかる。

- ・移転前、移転後共に寮の個室について、半数以上の者が勉強にいいと考えているが、食事やリラックスにいいのは新しい寮であり、友達と話すのにいいのは古い寮だと考えている。

- ・食堂のスペースは食事、交流、メディア（TV、新聞、雑誌等）接触などの目的のために使用していた。

- ・古い寮に共同設備があったことについては、長短どちらもあると考えている学生が半数以上で、2つを比べると「悪かった」を選んだ者が「良かった」を選んだ者より約7%多かった。良かった理由としてその場所が他の学生と会う機会になっていたこと、悪かった理由として汚かったことをあげた者が多かった。

- ・新しい寮の個室にシャワー、トイレ、電気コンロがあったことについては、半数以上の学生がいい点悪い点どちらもあると考えているが、「良くなった」とした者より「悪くなった」とした者が13.8%多かった。悪くなった理由として、62.1%の者が他の学生・友達と会う機会の減少をあげている。

- ・ほとんどの学生は勉強場所として自室に加え、教室や図書室、友人の部屋、食堂など複数の場所を確保していた。

- ・学生が友達や他の学生と話していた場所として、パブリックスペースとしての食堂や教室、体育館、音楽室、体育館、プライベートスペースとしての自分や友達の部屋、セミパブリックスペースとしての共同の設備のある所（キッチン、トイレ、シャワー）といった

所をあげている。

- ・何か困った時やストレスがあった時の対処として、「一人で過ごした」、「他の学生に相談した」、「友達と遊んだ」者がどれも6割で最も多い。また約半数の学生が国の家族に相談している。

- ・ほかの学生と「毎日よく話した」「よく話した」と答えた学生は86.2%である。

- ・センターにいた1年間で学生自身の心や行動が「ずいぶん変わった」「少し変わった」と合わせると96.5%である。理由として、自分の自立に関する回答や友達との交流等肯定的な変化をあげた者は全体の82.8%、「自信がなくなった」「他人を信頼し難くなった」という否定的と見られる変化をあげた者は13.8%いた。

- ・来日1年目の国費学部留学生が住む寮として適当な寮として、移転前の寮のような住まいをあげた者7割、移転後の寮のような住まいを選んだ者2割であった。

- ・来日1年目の国費学部留学生の住まいとして、「友達といっしょに料理や勉強がしやすい」「寮の他の学生と会う機会が多い」は多くの学生がとても大切な条件であるとし、「一人でいられる場所がある」「日本人学生と会う機会が多い」は上の2つほどではないが、大切な条件だと考えられている。

6 考察

以下に質問紙による調査の結果に基づき、生活空間としての寮の機能に関して検討する。その上で、交流による学びを促す空間のデザインの実現のためのプロセスに関して考える。

1) 学生は来日1年目の寮の生活に何が必要だと感じているか

2003年度の東京外国語大学留学生日本語教育センターの国費学部留学生へのアンケート調査によって、学生の約7割は、古くて共同設備のある少々不便な寮を、新しく個室にシャワー、トイレ、ミニキッチンをついた寮より、来日1年目に過ごす生活空間として適当であると答えた。その理由として、友人関係が作りやすいことをあげている者が最も多かった。

また、すでに友人関係のできている学生同士なので、新しい寮に入ってもその関係、生活パターンはあまり変わらないだろうと思っていたが、回答の結果から個室にシャワーやトイレ、ミニキッチンがあると、友達と会う機会が減っていることを学生自身が感じており、後輩へのアドバイスとしては、自室にこもらないように心がけてもらいたいと述べる学生が多かった。

自国とは遠く離れた日本に来て、日本語は話せない、まわりは知らない人ばかりという中で、留学生自身が生活を安定させていく必要があり、来日してまもなく始まる大変早いスピードでの授業を受けながらプレッシャーに負けずに健康に過ごしていくためには、学生同士が顔を合わせる機会の多い空間が、住まいとして大切な要件になっていると考える。「他の文化との出会い」や「文化が違って心は同じ」体験、「他の人との多くの交流による、社会の中で自分が生きていく自信」は、大学あるいは社会において必要とされる自分の考えを客観的に伝える能力や物事を多面的に捉える能力にもつながっていると考えられる。

河合（1997）は、ほんとうに人間をかえるものは「体験」しかなく、頭でわかっても、それは人間を変える原動力にはならないと述べるとともに、異文化体験は自己実現に深くかかわっており、自立した人間は人間関係をもつことができると述べている。また、養老（1997）は、文化について無意識的部分が多くあり、言語的に説明することが困難であるという。授業で行うことは「頭」でわかることが多いことを考えると、生活空間で異文化体験を自然に重ねることは重要であり、今回の回答を見ると、学生自身の人間関係づくりと自立とがお互いに作用し合っているように思われる。

こう見てくると、現在の新しい寮としての国際交流会館での住まいについては、学生同士のコミュニケーションを促す何らかのきっかけづくりが求められていると言えよう。現在の共通空間は主に1階にあり、どの空間も最大でも10～20名以上入ることは難しいぐらいの広さで、深夜から朝にかけての使用は現在できないが、今後使い方、空間利用の工夫により、より交流のしやすい状況を作り出すようにしたいと考える。ただ、その際に学生の回答にもあるように、自分のプライベートな面を守ることに配慮は必要であろう。

2) 交流による学びを促す生活空間のデザインの実現のためのプロセスに関して

学生の回答から、交流のしやすさや人間関係の広がりや深さは、寮の構造にかなり影響を受けることがわかった。これについては、筆者自身反省する点がある。日本人学生が来る機会が少ないことなど移転前の寮の悪い点は比較的よく把握していたが、学生の回答であげられた交流のしやすさがどのような要因からもたらされるのか、なんとなくでしか理解できていなかった。そのため、国際交流会館の設計プランが会議で口頭報告された時に、明解な根拠と共にどのような個室空間であるべきかといった問題提起をすることなく聞くだけで済ませてしまった。もう少し空間デザインと心理、コミュニケーションの関連に詳しくければ、より交流のしやすい生活空間を提案できていたかもしれない。

今後も、寮やアパートの建設が行われることがあると思われるが、プラン作成の際に、各居住者の動き（動線）の重なり方、空間と心理の関係（例 どんな空間あるいは入口であれば、人が入りやすいか）等から交流の可能性をシミュレーションし、生活空間をデザインする必要があるように思われる。例えば、各国の研究者や学生の住まいを新しく造る際には、それを使用する立場をよく知る教員や職員、学生達（例 修了生）が、生活空間デザインや建築設計の専門家とチームを組んで、交流を育む生活・学習空間のデザインに取り組むことが望まれる。このような取り組みが実現できるか否かで、大学あるいはセンターとして親日家や知日家を育てられるか、多文化共生に関する知の共有・創出が可能になるかどうかが決まるとも言えるだろう。

7 終わりに

今年度の学生を見ていて、それぞれの学生がその学生なりに人間関係を構築し、生活のコントロールをしながら学習を進めているのに触れ、もしかしたらあまり問題はないのかもしれないとも思う。大学学部に入學した後、同じようなタイプの大学の寮やアパートに住むことになる学生も多いからである。ただ、日本での5年間の生活の中で、留学生でもあるいは日本人とでも本音でぶつかった、文化の違いを越えてお互いの存在そのものを受

け入れられたという経験を、留学生活の中で学生自身が得ていてもらいたいと願う。そのための生活空間、学習空間を考えていきたいと思う。

<参考文献>

異文化間教育学会(1999) 『異文化間教育』 vol.13.

岩男寿美子、萩原滋 (1988) 『日本で学ぶ留学生—社会心理学的分析—』 けい草書房

河合隼雄 (1997) 「異文化体験の軌跡」 河合隼雄、養老孟司編 『現代日本文化論 7 体験としての異文化』 岩波書店 pp.249-270.

シウ・マンハン(2001) 「卒業生は語る：私の留学経験」 『2000 年度センター年報』 東京外国語大学留学生日本語教育センター、No.8、p.4

玉岡賀津雄 (2004) 「これからの留学生宿舎を考える」 『留学交流』 vol.16, no.7, pp.2-3.

東京外国語大学留学生日本語教育センター(2004) 『2004 年度履修案内』

東京外国語大学留学生日本語教育センター (2004) 『2003 年度センター活動記録』

東京外国語大学留学生日本語教育センター(2002) 『2002 年度履修案内』

東京外国語大学留学生日本語教育センター (1999) 『国費学部留学生予備教育--その現状と課題』

東京外国語大学留学生日本語教育センター(1995) 『1970 年度～1993 年度入学生を対象とする国費学部留学生に関する調査報告』

ダンス・ダンカン(2004) 「卒業生の声：大切なのはコミュニケーションをとること」 『2003 年度センター年報』 東京外国語大学留学生日本語教育センター、No.11、p.10

日本学生支援機構 (2004) 『留学交流』 vol.16, no.7.

村上京子(2003) 「留学生と日本語教育—学部留学生の実態と問題—」 『留学交流』 3月号 pp.6-9.

養老孟司 (1997) 「文化論とはなにか」 河合隼雄、養老孟司編 『現代日本文化論 7 体験としての異文化』 岩波書店 pp.249-270.

横田雅弘、白土悟(1995) 『留学生アドバイジング--学習・生活・心理をいかに支援するか』 ナカニシヤ出版

レナウ・ジェイソン(1998) 「卒業生は語る：思い出『大切な心』」 『97 年度センター年報』 東京外国語大学留学生日本語教育センター、No.5、p.5

東京外国語大学留学生日本語教育センターの古い寮と新しい寮の両方を経験した2003年度の学生の皆さんに質問します。

このアンケートは、寮の生活や人間関係作りについて学生の皆さんの意見を聞く目的で行うものです。

以下の質問について、あなたが思った通りに答えてください。プライバシーは厳守します。質問の答えとして、そうだと思うもの全部の()に○を書いてください。

○はいくつでもいいです。

1 あなたが2003年4月から2月中旬まで住んでいた古い寮について質問します。

1) 各学生の個室(自分用の部屋)についてどう思っていましたか。あなたが生活していた時に感じていたことを思い出して、当てはまるものを全部選んでください。

古いセンターの私の寮の部屋は

- () 勉強するのにいい () 友達と話すのにいい
() 食事するのにいい () 部屋にいるとリラックスできる

その理由やコメントを書いてください。

→ ()

2) あなたにとって、食堂のスペースはどんな所でしたか。そう思うもの全部に○をつけてください。

- () 食堂の食事を食べる所 () 食堂の方とあいさつしたり少し話す所
() 他の学生と話す所 () テレビを見る所
() センターの先生と話す所 () 勉強する所
() 新聞や雑誌を読む所 () パーティーをする所
() ほかのことをする所

→どんなことですか?教えてください。

()

3) 寮に共同の設備(キッチンやシャワー室、トイレ)があったことについてどう思いますか。

- () 良かったと思う
() 悪かったと思う

共同の設備があつて良かった点、あるいは悪かった点はどんなことですか。

良かったこと→ ()

悪かったこと→ ()

2 あなたがセンターにいた時の生活についてお聞きします。

1) あなたはどこで勉強していましたか。当てはまるものを全部選んで○をつけてください。

- 自分の部屋、 友達の部屋、 食堂、 音楽室、 図書室
 教室 スカイラーク
 そのほか→どこですか？私は () で勉強していました。

2) あなたが、友達や他の学生と話していたのはどこでしたか。当てはまるものを全部選んで○をつけてください。

- 自分の部屋、 友達の部屋、 各階のキッチン、 シャワー室、
 トイレ、 体育館、 食堂、 音楽室、
 図書室、 教室 スカイラーク
 その他→どこですか？私は () で友達と話していました。

3) あなたがセンターにいた時、何か困った時やストレスがあった時、どうしましたか。
当てはまるものを全部選んで○をつけてください。

- 一人で過ごした、 ほかの学生に相談した、 先輩に相談した、
 先生に相談した、 友達といっしょに遊んだ、 一人でスポーツをした、
 友達といっしょにスポーツをした、 お酒を飲んだ、
 国の家族に相談した、 国の友達に相談した
 その他→どんなことをしましたか？
→ ()

4) センターの寮でほかの学生とよく話しましたか。

- 毎日とてもよく話した よく話した 時々話した
 ほとんど話さなかった

5) センターの1年間の寮の生活で、あなた自身の心や行動などが変わったと思いますか。

- ずいぶん変わった 少し変わった ほとんど変わっていない
 全然変わっていない

6) 5) であなた自身が変わったと考えている人に質問します。センターの1年間であなた自身の心や行動がどのように変わったと思いますか。感じることを全部書いてください。

()

7) センターにいた時、あなたに以下のことをしてくれていた友達、知人、先生は何人ぐらいいましたか。だいたいの数でいいですから、その人たちを思い浮かべて () に人数を書いてください。センターの教師については、「日本人」の中に入れて考えてください。

例・お互いにあいさつできる人：留学生は (20) 人ぐらい、日本人は (10) 人ぐらい

・あなたが勉強で困った時、助けてくれる人：留学生は () 人ぐらい
日本人は () 人ぐらい

・あなたのいい点も悪い点も分かってくれている人：留学生は () 人ぐらい
日本人は () 人ぐらい

・あなたが悪いことをしたら、注意してくれる人：留学生は () 人ぐらい
日本人は () 人ぐらい

・あなたが悩みを話せる人：留学生は () 人ぐらい
日本人は () 人ぐらい

・冗談を言い合える人：留学生は () 人ぐらい
日本人は () 人ぐらい

・お互いにあいさつできる人：留学生は () 人ぐらい
日本人は () 人ぐらい

3 引っ越した後のセンターの新しい寮について質問します。

- 1) 新しいセンターの寮の各学生の個室（自分用の部屋）についてどう思っていましたか。
2月中旬以降のあなたが生活していたころに感じていたことを思い出して、
当てはまるものを全部選んでください。

新しい寮の私の部屋は

- () 勉強するのにいい () 友達と話すのにいい
() 食事するのにいい () 部屋にいとリラックスできる

その理由やコメント ()

2) 学生の各部屋にシャワーやトイレ、料理をするための小さいコンロが設けられました。

そして、寮の食堂や、共同の設備（みんなでいつも使うキッチンやシャワー室、トイレ）がなくなりました。それについて、どう思いますか？くわしく説明してください。

- () 良くなった
() 悪くなった

良くなったこと→ ()

悪くなったこと→ ()

4 センターの古い寮と新しい寮の両方についてのあなたの考えをお聞きします。

- 1) 来日したばかりのセンターの新しい学生が、1年間過ごす寮として適当だと思うのは古い方の寮と新しい方の寮のどちらのような住まいですか？その理由も書いてください。

- () 古い方の寮のような住まいに住むのがよい
() 新しい方の寮のような住まいに住むのがよい

その理由→ ()

2) 来日したばかりのセンターの学生にとって、住む場所としての寮にはどんな条件が必要だと思

いますか？とても大切な条件だと思うものには◎、大切だと思う条件には○を選んでください。必要だと思うものにはすべて◎か○を書いてください。

- () 一人でいられる場所がある () 友達といっしょに料理や勉強がしやすい
() 寮のほかの学生と会う機会が多い () 日本人学生と会う機会が多い
() そのほかのこと

→どんなことですか？ ()

3) あなたがセンターの寮に1年間住んで、よかったと思うことは何ですか？
どんなことでもあげてください。

()

-

4) 今、センターの新しい寮に皆さんの後輩が住んでいますが、住む時にどんなことに気をつけたらいいと思いますか。アドバイスをお願いします。

()

5) 今のあなたの住まいについて、何か言いたいことがあったら、書いてください。

()

6) 今のあなたの大学での勉強や人間関係について、何か言いたいことがあったら、書いてください。

()

5) このアンケートで、あなたが答えたことについて、私からあなたに確認したり、詳しく聞きたい時、メールなどで連絡してもいいですか。

() はい
() いいえ

「はい」と答えてくれた人は、あなたの名前とメールアドレスを教えてください。

あなたの名前 ()
メールアドレス ()

質問はこれで終わりです。ありがとうございました。

資料2 自由記述欄の回答

(回答がわかりにくい場合、あるいはプライバシー保護のためにのみ筆者が[]内に同じ意味になるよう言葉を補足した。それ以外はそのままである。)

2-6) 5) であなた自身が変わったと考えている人に質問します。センターの1年間であなた自身の心や行

動がどのように変わったと思いますか。感じることを全部書いてください。

- ・他の人に対して違う目に見ることができた。多様文化ということが分かった。人がそれぞれ違うということが分かった。他の人と自分のことを考えるようになった。
- ・私は頑張ればできるなーという自信が強くなった。そして、たくさんの優秀な学生たちと一緒に勉強して、もっとくわしくならないと駄目だと分かったのは一番大きな変化だった。成長しました。
- ・自分がもっと努力しなければならないことを分かるようになった。
- ・少し大人になってきたと感じる。料理ができるようになった。センターの人々にとっても親切にしてもらったので、日本の生活がとてもいいと思ったが、センターを出ると、ショックを受けてしまった。
- ・一年間で一人暮らしで自立できるようになった。
- ・他文化に会って、それに許容しやすくなったと思う。
- ・他人とより多く交流できたので、社会の中で自分がうまく生きていけるように感じるようになった。一人暮らししても困らないようになった。
- ・ひじょうにさびしく感じた。
- ・他人を信頼し難くなり、一人きりの方が安楽になった。
- ・自己積任[責任]感を実感した、日本の文化に適応してきた
- ・一番変わったことは日常の生活のことほとんど自分でやることだ。といっても、寮の生活をしているうちに、友達存在をととても大切に思うようになった。
- ・色んな友達ができ、外の学生たち、とくに[同国人の]友達と自分を比べてみて、自分の能力がどの程度かをわかり、外の学生たちがどうやって勉強するの[か]を見て、もっと頑張ろうという気持ちになった。
- ・他の人ともっと自由に話せるようになりました。
- ・日本に来たばかりの時、友達があまりなかったので、さびしかった。しかし、1年間たって、たくさんの友達ができて、楽になった。
- ・家[家族]から独立になった
- ・自信を亡くして、憂うつになった。
- ・昔より自信がある（何でも一人でガンバッテた）し、よく友達と話したり遊んだりすること
- ・もっと積極的になった。自分自身が mature したと思う。
- ・外国人をもう少し理解できるようになった
- ・運動不足や勉強ストレスのため、積極的ではなくなり、自信がなくなっていた。
- ・目や心が広がった感じがし、もっと積極的に人間関係をつくりたい、ものを知りたいということ。
- ・みんなと話すようになった

- ・他の学生といっしょにいと同時にお互いのことを理解しながら、自分の心も変わったと思います。
- ・文化が違っても、心は同じだということを知ることができた。
- ・他の考え方のある人を認めるようになってきました。前よりもっと自立な生活をできるようになってきました。
- ・すごく大人っぽくなり、自分の責任をよく感じ、そしてこれから一人暮らしをしたくないことが分かり、家族の重要性も分かりました。

4- 1) 来日したばかりのセンターの新しい学生が、1年間過ごす寮として適当だと思うのは古い方の寮と新しい方の寮のどちらのような住まいですか？その理由も書いてください。

<古い方の寮のような住まいがよいと思う理由>

- ・友達と出会うことが寮での生活に欠かせないものだと思う。
- ・他文化の中に入ったばかりの時一番大切なのは人との交流だと思うから
- ・たくさん話せたり、友達と一緒に勉強したり、遊んだりするのにいい
- ・ほとんどの留学生が日本で自分の自立な生活を生き始まり、他の同じ苦しくて楽でいる人と会うのは非常に大切だと思います。
- ・来日したばかりだから、他の学生と先生がたとよく会えて、関係づくりいいのは古い寮だと思います。
- ・楽しくて、みんなと親友関係を作ることができる。勉強にもよい。
- ・みんなが会うきっかけが多くなる
- ・他の学生との一体感がもっと感じられ、食堂やキッチンやシャワー室などで会って、多くな友達を作ることができた。
- ・そこは便利で、各学生と先生と話せるし、食堂があるから、日本の料理をやすく食べられる。
- ・雰囲気良くて、家族のように感じました。
- ・広くて、買物にも便利だし、駅も近い
- ・寮と教室が一つの建物にあるのが温かく感じる
- ・やはり私は住みやすいところの方がいいと思う。両方ともいい点があるが、古い寮の方が便利だと思う。駅、郵便局、スーパーやショッピングセンターなどに近い。しかし新しいの方は東外大のキャンパスにあるのはとてもいい点だと思う。
- ・場所が便利だった。駅と近いし、ルールもあまりない。
- ・便利なところだった
- ・便利
- ・なんとなくそうおもう。特に駿[駅]と、スーパから近い。
- ・新しい寮の方が寂しい感じがした。

<新しい方の寮のような住まいがよいと思う理由>

- ・外大の本キャンパスにあったので、日本人と会える機会が多い。つまり、日本語を勉強するのに非常によいところと思う。
- ・日本語の練習や新生活に早く慣れるように、新しい方の寮が最適である。留学生の友達だけでな

く、日本人の友人もつくれる。

- ・新しい寮の部屋は便利
- ・マンションのような住まいのため
- ・古い方も長点（人間関係において）があるが、新しいのがきれいでもっと便利だと思う。
- ・どちらかという自分のシャワーやトイレがあるから新しい寮の方がいい

<どちらも選ばなかった理由>

- ・それぞれ利点がありました。
- ・判断は難しい。新しいのは良いけど環境はよくない。例えば買物、交通、遊ぶ所 (billiard, bowling, karaoke...)
- ・両方ともいい点と良くない点もあるのでどちらの方がいいか一言で言えないが、古い寮ではとてもいい友達ができ良かったと思う。留学生には何よりも人間関係はとても大切なことであると私の意見である。